



## 河盛純造さんを偲ぶ会

平成29年11月23日

ステーションコンファレンス東京

本日はご多忙の中 河盛純造さんを偲ぶ会に

ご出席賜り誠にありがとうございました

スポーツ万能で 穏やかで おしゃれで

紳士だった河盛さんが 75歳という年齢で

我々に別れを告げようとは

誰も予想だにできませんでした

彼のテニス界での活躍をふり返り

在りし日を偲びつつ

冥福を祈りたいと思います

# 河盛 純造さん



河盛さんは日本が50年ぶりに勝利を収めた71年のデ杯豪州戦でダブルスに出場、自身は黒星を喫したが歴史的瞬間に立ち合った。全国大学テニス王座決定戦では甲南大を初優勝に導いた。勝負を決する2つの試合が忘れられないという。中でも親友の松本鉄一さんを相手に、2日がかりの死闘を演じた慶応大との王座最終戦は最も思い出深いという。河盛さんが常務取締役を務める東京・日本橋兜町の証券会社で話を聞いた。



甲南中学時代

将来のデ杯選手3人

左から

小林功、河盛純造、渡辺康二

河盛さん、渡辺康二さん、小林功さん。一緒にテニスを始めた甲南中学の同級生3人がデ杯選手になった。良きライバル、良き先輩に恵まれたことが大きかったようだ。河盛さんは甲南中学に入学し、同級生の渡辺さんとともにテニス部に入った。だが、1学年約120人のうち、80人もの入部希望者が殺到。ボール拾いとランニング、コート整備に明け暮れた。1週間すると新入部員は半分に減り、さらに1カ月でそのまた半分に。結局残ったのは十数人。希望者が多すぎるため、本当にやる気のある者だけが残るよう厳しい環境が用意されていた。



1969年デ杯フィリピン戦

首相官邸での抽選会

右から河盛純造、渡辺功、柳恵誌郎、  
渡辺康二

グリップの握り方やテニスの基本は高校3年の石黒修キャプテンに教わった。中学と高校で2面しかなく、石黒さん以下うまい順にコートに入った。ようやく順番が回ってきて初學者同士ではラリーが続かない。5、6球ラケットに球が当たったかと思うとすぐ交代だった。

だが、運が良いことに、同級生の松本さん宅にテニスコートがあった。土日は同級生みんなで彼の自宅を訪れ、朝8時ごろから日没までボールを打った。高校や大学に日本のトップ選手が大勢いたことも幸いした。ちょうど河盛さんが中学生のころ、松岡修造さんの父功さんが大学生だった。「一緒に練習することはなかったけど、プレーを見て育った」。

みるみる上達し、甲南は関西地区でも指折りの強豪校になった。だが、今度は同級生に勝たないとレギュラーになれない。練習試合も真剣だった。



1971年デ杯フィリピン戦 マニラにて

高校の途中から、医師をしていた父の転勤にともない熊本県立熊本高校に編入。大学は甲南に戻り、再び渡辺さんらと練習をすることに。だが、河盛さんはまったく練習についていけなかった。「体力が全然違った。彼らが簡単にこなしていることを自分はできない。高校時代の2年間のギャップは大きかったね」。

渡辺さんや小林さんは大学1年からレギュラー。ニューボールを使って優先的に練習する傍らで河盛さんは球拾い。そのままでは技術的にも体力的にもどんどん差が広がってしまう。河盛さんは球拾いをしながら蛙跳びをして足腰を鍛えた。さらに、足りない分は練習前にコートに出て補った。2つ上の先輩、那須善彦さんが朝7時から約1時間半、サーブを徹底的に教えてくれた。それまではスライス系だったが、特訓の成果でスピンサーブを覚えた。「幸せなことに有望視してくれたんだと思う。大学の先輩には藤井道雄さんや平野一斉さんとか、強い選手がたくさんいて、よくめんどうを見てもらいました」。

強豪揃いの甲南だったが、ライバルの関西学院や慶応に阻まれ、大学王座とは縁がなかった。河盛さんが大学4年の63年7月、初出場で初優勝のチャンスがめぐってきた。

甲南大と慶応の決勝、芦屋コートで行われた第一日のダブルスで甲南が2勝1敗とリード。初優勝を期待する甲南OBが50人以上も見守る中、翌日のシングルス6試合はもつれにもつれた。「ナンバー6のシングルスが6時間半もかかった。結局フルセットで負けたんですが、僕はその後で試合に入ったから日没になった」。

甲南はナンバー4から6の下位を落とし、慶応に逆転を許す。ナンバー3の小林さんはフルセットで勝ったが、最後の2試合は日没順延。3-4で最終日を迎えた。翌日は2-0でリードしていた渡辺さんが早々と勝利。勝負はナンバー2の河盛さんと松本さんの試合にかかった。「松本君は親友で、僕が熊本の高校に転校した後も、関西で試合があると彼の家に泊めてもらっていた。勝負のかかる試合で対戦するなんて皮肉なことでした」。前日は6-8、7-5、6-8、1-2の大接戦。「普段練習している甲南のコートは速いんですが、松本君のサーブはすごい遅い。しかも球足の遅いアンツーカーで山なりのボールを打ってこられ対処できずミスしていた」。

だが、翌日は緩いボールへの対策を考え、ペースを合わせず積極的に打っていった。一転、河盛さんが主導権を握り、6-2、6-1でゲームセット。その晩はOBが盛大な祝勝会を開いてくれ、優勝カップで酒を飲んで盛り上がった。

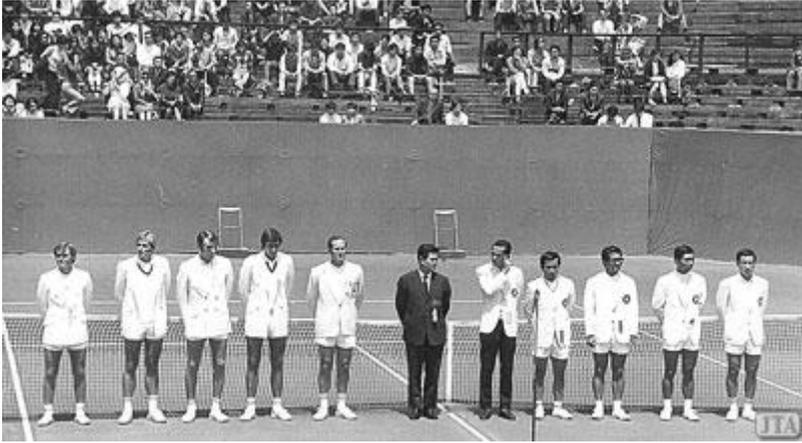


### 王座優勝メンバー

浅井	河盛	小林	和田邦平	渡辺康二	前川治一郎	野々村浩	西尾忠朋	甲斐建樹
正順	純造	功	顧問					

卒業後は日本生命に就職。ダブルスで強さを発揮し、68年から4年連続でデ杯代表に選ばれた。特に71年豪州戦の歴史的勝利の前年は、小浦武志さんとのペアで全日本優勝を始め無敵。海外の大会でも強豪を次々破り、「ひょっとしたら俺ら強いかも」と2人で言い合うほど自信を深めていた。

そんな中めぐってきた豪州戦。29歳の河盛さんはチーム最年長。監督は同級生の渡辺さんだった。「僕さえおさえておけば若手にもおさえがきくと思ったんでしょう。僕には厳しかった」。



1971年 デ杯豪州戦 開会式

初日のシングルスで柳恵誌郎さんと坂井利郎さんが2勝を挙げ「快挙まであと1勝」に迫った。「勝てると思ってコートに入りましたよ。プレッシャーはなかったけど、ファーストはものすごい気負ってしまった」。セカンドから本来のプレーを取り戻したが、惜しくも敗退。だが、坂井さんが2日がかりで勝って50年ぶりに豪州戦勝利を決めた。

「僕たちは負けましたが、感激しましたね。チームが良かったと思います。試合に出ない選手がスピードサーブ攻略のため、サービスラインからサーブを打つなど練習台になってくれたしね」。

豪州戦勝利の後、周囲の見る目も変わったという。ヨーロッパ遠征に行くと、他の選手が「グレートデビスカップが来たから席を譲れ」と席をあけてくれたこともあった。

「僕は周りにすごく恵まれた。絶えずライバルがいたし、先輩たちもよくめんどろみしてくれた。『テニスの河盛』というのは引退後もついてまわって仕事にも生きた」。引退後もテニスで得た経験が、河盛さんを支えている。



## プロフィール

河盛 純造（かわもり・じゅんぞう）

- 1941年11月生まれ
- 兵庫県芦屋市出身
- 甲南大卒
- 日本生命保険相互会社



1969年 欧州遠征メンバー

前列左から 河盛純造、平井健一、沢松順子、沢松和子、松田八重子  
後列左から 坂井利郎、渡辺康二、柳恵誌郎、小浦猛志、九鬼潤、神和住純

注：本文は（公財）日本テニス協会のホームページに掲載された「思い出に残るあの試合」（河盛純造さん）より引用させて頂きました。

# 河盛純造氏戦績抜粋

**Davis Cup 代表選手 1968年～71年**

1971年対豪州戦勝利のダブルス出場

**全日本テニス選手権大会**

ダブルス優勝2回 1968年 1970年

**海外ダブルス優勝3回 1969年**

リバープール (英) サンモリッツ (スイス) ヴィゴ (スペイン)

**関西選手権大会**

シングルス優勝2回 (1967年 1971年)

ダブルス優勝3回 (1965年 1970年 1971年)

混合ダブルス優勝4回 (1964年 1965年 1970年 1971年)

## 全日本テニス選手権大会

1960	複	R32	河盛・前川 (甲南大1年)	26 26 26	石黒・長崎 (三菱電・日興証)
1961	単	R64	河盛 (甲南大2年)	26 36 26	石黒修 (三菱電機)
1962	単	R64	河盛 (甲南大3年)	36 36 26	久保嘉定 (朝日生命)
	複	R32	河盛・浅井 (甲南大3・1年)	46 36 26	西村・松本 (慶大4年・3年)
1963	単	R64	河盛 (甲南大4年)	62 46 46 36	半田哲也 (朝日生命)
	複	R32	河盛・浅井 (甲南大4・2年)	26 75 63 62	渡辺功・崎口 (早大3・2年)
		R16		61 60 63	吉井・西村 (学習院4・2年)
		R8		16 36 46	加茂・石黒 (三井物・三菱電)
1964	単	R64	河盛 (日本生命)	79 26 36	黒松秀三郎 (早大3年)
	複	R32	河盛・有本 (日本生命)	60 26 46 62 64	伊藤・芥川 (東洋紡・帝人)
		R16		97 61 64	田中・坂本 (三菱化成)
		R8		36 46 46	石黒・渡辺功 (三菱電・早大)
混	R32	河盛・木村 (日生・甲南大)	62 64	山西・中野 (梅村学・名古屋)	
	R16		60 62	西村・玉井 (林兼産業)	
	R8		36 63 26	小西・ノード (住軽・東京ク)	

1965	単	R64	河盛（日本生命）	36 46 36	浅田伸二（法政大）
	複	R32	河盛・有本（日本生命）	108 62 86	市山・二宮（旭化成）
		R16		62 46 75 75	田中・水田（三菱化成）
		R8		46 75 64 108	菅・柳（朝日生命）
		SF		46 63 1311 68 64	藤井・渡辺功（三菱電・住軽）
		F		63 36 36 810	石黒・渡辺康（三菱電・住軽）
	混	R32	河盛・野々村（日本生命）	61 63	溝口・佐藤（フタバヤ・神宮）
		R16		46 64 16	藤井・木村（三菱電・芦屋ク）
1966	単	R64	河盛（日本生命）	63 62 62	奥村達夫（関学）
		R32		68 26 68	中島国智（慶大）
	複	R32	河盛・有本（日本生命）	60 63 63	浅野・平野（鎌倉ク）
		R16		63 36 86 64	横山・今井（関学）
		R8		64 1311 64	山岸・古林（慶大）
		SF		36 16 64 16	石黒・藤井（三菱電機）
1967	単	R64	河盛（日本生命）	61 46 108 26 61	大日方昭太（早大）
		R32		36 60 64 62	平井健（法工高）
		R16		61 26 62 63	森良一（日本生命）
		R8		64 61 06 64	坂井利郎（早大）
		SF		63 36 16 62 46	柳恵誌郎（朝日生命）
	複	R32	河盛・広瀬（日生・朝日生）	63 64 63	安積・桑原（法大）
		R16		46 64 46 61 36	大日方・財津（早大）
	混	R16	河盛・野々村（日本生命）	63 63	内山・鯨井（フタバヤ）
		R8		46 63 61	中川・笹本（昭和ゴム・朝生）
		SF		46 63 61	黒松・村上（朝日生命）
		F		26 57	広瀬・小幡（朝生・フタバヤ）
1968	単	R64	河盛（日本生命）	60 61 75	上遠野守正（成蹊大）
		R32		63 62 61	平井健（法工高）
		R16		68 68 64 68	小林功（住軽金）
	複	R32	河盛・渡辺康（日生・住軽金）	36 60 62 61	今泉・内田（アイシン・愛知）
		R16		61 63 61	山岸・栗岡（明生・大正海上）

	R8		63 108 63	浅田・平井（法大・法工高）	
	SF		62 36 57 62 63	小林・渡辺功（住軽金）	
	F		63 62 62	森・宇津原（日本生命）	
1969	単	R64	河盛（日本生命）	62 64 64	土肥（早大）
		R32		64 63 61	茶円（関大）
		R16		36 16 36	神和住純（法大）
	複	R32	河盛・渡辺康（日生・住軽金）	64 61 60	鈴木・大日方（東京海上）
		R16		62 62 64	渡辺・上原（近大）
		R8		Def	柳・有本（朝日生命・日生）
1970	単	R64	河盛（日本生命）	61 61 60	鉄屋正夫（神戸大）
		R32		68 62 06 46	宇津原秀司（日本生命）
	複	R32	河盛・小浦（日生・久我産業）	97 1311 62	宮下・安達（立教大）
		R16		60 63 61	野間・白石（慶大）
		R8		62 86 62	渡辺康・小林（住軽金）
		SF		86 63 86	クリシュナン・ミスラ （インド）
		F		64 63 79 63	マリガン・カイモ（イタリア）
	混	R16	河盛・野々村（日本生命）	63 36 57	鄭・鄭（韓国）
1971	単	R64	河盛（日本生命）	61 62 810 64	本村行（成蹊大）
		R32		26 64 61 61	内田勝治（愛知ク）
		R16		46 63 61 62	西脇壮彦（フラコク）
		R8		46 46 97 36	渡辺康二（住軽金）
	複	R32	河盛・小浦（日生・久我産業）	61 60 64	高柳・細野（朝日生命）
		R16		64 64 62	金・金（大韓民国）
		R8		63 75 61	九鬼・田辺清（法大・東京ク）
		SF		36 60 36 46	森・宇津原（日本生命）

## Davis Cup

1969	複	東洋 Z A SF (田園)	64 64 63	Cruz, Marshal (Philippines)
		河盛・渡辺康		
		東洋 Z F (プーナ)	36 1113 97 46	Lall Mukerjea (India)
		河盛・渡辺康		
1970	複	東洋 Z A F (田園)	57 75 26 46	Stone, Ruffeles (Australia)
		河盛・小浦		
1971	複	東洋 Z A SF (マニラ)	62 86 36 86	Deyro, Cruz (Philippines)
		河盛・小浦		
		東洋 Z A F (田園)	16 63 911 16	Giltinan,
		河盛・小浦		Dibley (Australia)

### 全日本学生選手権 (記録は準々決勝戦からのみ存在)

1963	単 R8	河盛 (甲南大 4年)	57 16 46	渡辺功 (早大)
------	------	-------------	----------	----------

### 全日本大学王座決定戦

	甲南	5-4	慶応義塾大学	
1963	複 No. 1	河盛・浅井	60 46 46 62 26	田中・飛鳥井
	複 No. 2	渡辺・小林	63 64 64	杉野・中山
	複 No. 3	野々村・甲斐	62 75 119	松本・田村
	単 No. 1	渡辺	62 63 63	杉野
	単 No. 2	河盛	68 75 68 62 61	松本
	単 No. 3	小林	26 68 63 64 61	田中
	単 No. 4	野々村	57 36 16	飛鳥井
	単 No. 5	浅井	26 64 26 57	中山
	単 No. 6	前川	79 62 63 68 26	石川

## 関西選手権

1963	複	SF	河盛・小林（甲南大）	46 26 108 75 64	古田・林（日本生命）
		F	河盛・小林（甲南大）	61 63 62	田中・飛鳥井（慶応大）
1964	単	R8	河盛（日本生命）	68 16	小林（住軽金）
	複	SF	河盛・有本（日本生命）	63 61 75	田中・飛鳥井（慶応大）
		F	河盛・有本（日本生命）	1214 63 46 64 26	広瀬・久保（朝日生命）
	混	F	河盛・木村（日生・甲南）	63 26 75	広瀬・井波（朝日生命）
1965	複	SF	河盛・有本（日本生命）	61 62 75	宮川・松田（関学）
		F	河盛・有本（日本生命）	75 36 64 62	広瀬・小浦（朝日生命・関学）
	混	F	河盛・野々村（日本生命）	63 62	有本・坂田（日本生命）
1966	単		優勝	記録なし	
1970	単	R8	河盛（日本生命）	63 26 64	宇津原秀司（日本生命）
		SF	河盛（日本生命）	26 1513 61 63	細井禎蔵（市岡庭集会）
		F	河盛（日本生命）	26 16 26	小林 功（住軽金）
	複	SF	河盛・小浦（日生・久我産業）	75 61 63	木本・池田（日本生命）
		F	河盛・小浦（日生・久我産業）	63 63 62	宮川・中沢（関学）
	混	F	河盛・野々村（日本生命）	75 57 62	宇津原・村上（日本生命）
1971	単	R8	河盛（日本生命）	75 60	仲井紘一（日本電炉）
		SF	河盛（日本生命）	36 75 62 64	細井禎蔵（市岡庭集会）
		F	河盛（日本生命）	62 63 61	木本結一郎（日本生命）
	複	SF	河盛・宇津原（日本生命）	64 62 60	仲井・安積（日本電炉）
		F	河盛・宇津原（日本生命）	62 63 63	辻本・木本（甲南大）
	混	F	河盛・村上（日本生命）	75 36 119	加藤・松田（住金・旭化成）

## 第19回生 河盛純造（日本生命勤務）

今年9月22日、テニスのデビスカップ東洋ゾーン決勝の開会式を待っていた僕たちに激励の電報が届けられた。その中の一通は、驚いたことに「山手小学校生徒一同」とあった。この試合でも活躍した渡辺康二君と僕とは山小で同じクラスになって以来の親友なのである。ふたりとも緊張した気持ちをしばし山小時代を懐かしく思い出すことにより柔らげられたのであった。

芦屋の街より眺めると緑の中にひときわ白く見える校舎、もっとも僕の頃は緑色だったが。入学式のころには桜のトンネルとなり生徒を喜ばせた桜並木。今は舗装されて車が終始行きかう道路も、当時は地道でまるで校庭の一部かのように皆が広く広がってはしゃぎつつ上り下りしたものだ。朝早くから行って野球やドッチボールをするスペースを占有した。今やかましくいわれている情操教育というものを、僕達はじゅうぶん受けたと思う。「よく学びよく遊べ。」という風潮があった。勉強のかたわら、とくに僕たちは担任の植田先生ご指導のもとにコーラス、器楽で活躍、ラジオの電波にのったこともしばしばあった。僕の出た甲南大学でも、目下ゴルフの若手の第一人者、ユースサッカーの日本代表にもなった山小出身者がいる。中学、高校と進むにつれて各種スポーツに活躍し始めた素地が、山小時代に幾分か培われたといったらオーバーだろうか。またあの坂を毎日上下して、たくましい足にしたためであろう。

11月に行われた全日本庭球大会に僕は渡辺とダブルスを組んだ。決勝の日はずばらしい快晴の屋下がり。大阪のオフィス街の真中の鞆コートで行われたせいもあってか、山小時代のクラスメートの幾人かが応援に来てくれた。幸いにして勝つことができた直後、彼らが祝福の握手をしてくれて、「クラスメート2人が一緒になってやっているのを見てると、こちらまで山小時代にもどってドッチボールでもやっている気になったよ。」と言った。卒業して10数年もたったとはいえ、あのころのことがまるで昨日のこのように目に浮かんでくるのである。

山小も創立35周年を迎えたとのこと、本当に嬉しく思います。現役でプレーしているスポーツマンとしてひとことお願いしたいことは「もやしっ子」の多いといわれる今日、小学生時代は勉強のほかにも体づくりに大いに力を入れていただきたいということです。（幸いにして僕たちの時は3・4年生ころに器械体操をよくお教えいただきました。）同時に力いっぱい走り回るスペースのない今日の小学生を気の毒に思わないではおれません。

オーストラリア遠征を目前にして、思いつくままに筆を執らせて頂きました。

デ杯戦、日本代表として山小卒業生  
渡辺康二君と河盛純造君へ  
—こどもの激励の手紙—

けさの新聞で、デビスカップ東洋ゾーン決勝戦、日本対  
印度の試合が、9月21日から東京の田園コロシムコー  
トで行われることが大きく報道されていました。

たまたま、きょう学校で「学校だより山手」をいただき、  
今度のデ杯戦に私達の山手小学校の出身の渡辺さん河盛さ  
んの二人が出場されることを知りました。このことにわた  
しは、非常にほこりを感じました。

デ杯は、85年の歴史があり、テニスをする世界の人々  
の最後の目標と聞いています。昔は、日本には清水、熊谷  
と言う有名な選手がいて、大いにデ杯戦で活躍されたとか。  
また昭和26年、戦後の苦しい時代にデ杯アメリカゾーン  
に出場、水泳の古橋選手のように戦後の日本に光をあたえ  
てくれたと聞いています。

お二人で、また新しいテニスの歴史をきづいてください。

今後の対戦相手、印度には有名なクリシュナン選手が健  
在ということですが、全力を出して日本のテニスのため、  
また私達のためにも最後までがんばってください。当日は  
私達もテレビを見て応えんしています。

ごけんとうをお祈りいたします。



# 日本、比国破り決勝へ

## 複(河盛)もストレート

### 27日から南ベトナムと対戦



テニスマッチの瞬間

テニスマッチの瞬間。河盛選手は、早もも勝利を決定した。この試合は、日本は、イビンを打ち返して、ダブルスを奪取した。この試合は、日本は、イビンを打ち返して、ダブルスを奪取した。この試合は、日本は、イビンを打ち返して、ダブルスを奪取した。

河盛選手は、早もも勝利を決定した。

日本は、南ベトナムと対戦する。河盛選手は、早もも勝利を決定した。この試合は、日本は、イビンを打ち返して、ダブルスを奪取した。この試合は、日本は、イビンを打ち返して、ダブルスを奪取した。

### 新ペアまず合格点

#### アルミ・ラケットと取組む河盛

河盛選手は、早もも勝利を決定した。この試合は、日本は、イビンを打ち返して、ダブルスを奪取した。この試合は、日本は、イビンを打ち返して、ダブルスを奪取した。

河盛選手は、早もも勝利を決定した。この試合は、日本は、イビンを打ち返して、ダブルスを奪取した。この試合は、日本は、イビンを打ち返して、ダブルスを奪取した。

河盛選手は、早もも勝利を決定した。この試合は、日本は、イビンを打ち返して、ダブルスを奪取した。この試合は、日本は、イビンを打ち返して、ダブルスを奪取した。

慶大あと一勝で優勝

全国学生選手権王座決定戦  
全商学生選手権王座決定戦 甲南  
大―慶大の第二日は、七日午前  
十時から当屋コートで練習、シ

グルス大会を行なつた。前日の  
ダブルス―のリードされ  
た慶大は、NO.6かNO.4位の  
のシングル三試合を強取して逆  
転。優勝あと一勝と迫つた。N  
O.3は甲南がとつて4―3。対  
校意欲の燃りあがるおもしろい試  
合となつたが、残り試合は日没  
中止となり、優勝決定は翌日に持  
ちこされた。

○飛鳥井	○中	○石	○川	○大
6677	7644	6688	3322	99
1355	2622	6666	6667	
野々村	浅井	前川		

杉野	松本	田中
032	285	438
226	117	666
渡辺	河盛	小林

# 甲南大、初陣の栄冠

## 全日本学生選手権 逆転、慶大を破る

【大阪発】前日の試合日没中止を、杯奪手の瀧辺はさすがに強く、ス  
勝負が一日のびた全日本大学対抗 トレート勝ち、優勝はナンバ―  
は勝者一千五百年創部以来初出場で 学生界の王座に君臨した。  
1日は、八日前十時から四層コート・ナツプ、4セットも  
1トでナンバ―・2河盛―松本 2―1と慶大優勢で試合は瀧  
鶴第4セット、ナンバ―・1瀧 だが、河盛は3のセットより  
から試合は繰返された。本年度テニ に持ち込み、前回は3―2  
マシシグルス

○渡	○河
666	666
333	285
杉野	松本

が、雙方は、やはり甲南大に負  
ある。NO.1瀧は杉野を句  
なく退け、NO.2河盛、松本の  
一戦に逆勝がわかれた。  
河盛は二セットを落とし、第四  
セットも1―1とリードされて、  
ピンチだったが、積極的に打ち  
ゲームを連取、ファイナルに持ち  
込んだ。松本はサーブも弱く、決  
め手がない。粘りながら相手のミ  
スを誘うタイプだが、当たりを取り  
り戻した河盛はチエシシ、ナフ  
こそ三連勝してリードを奪った。

甲南大は上位陣の活躍で逆転の  
初優勝をものにした。前日、シン  
グルスでトップの折川(慶―)前  
川(甲南)のチームが六時間半も  
かかり、NO.1、2の二試合は  
日没中止になった。慶大は下位で  
こそ三連勝してリードを奪った。

## 河盛純造さんを偲ぶ会

世話人 代表 渡邊 康二 (大 S39 卒)  
神原 武昌 (大 S39 卒)  
津山 隆三 (大 S41 卒)  
山本 敏雄 (大 S43 卒)  
太田 甫 (高 S39 卒)  
廣瀬 知正 (大 S46 卒)  
堀田 義男 (高 S44 卒)  
小川 隆司 (大 S50 卒)  
山中 祐子 (大 S57 卒)  
廣部 永隆 (大 S58 卒)  
是枝 宏二 (大 S58 卒)  
藤井 淳 (大 H2 卒 東京支部長)

オール甲南テニスクラブ

有志一同